

# 2018 年度 センター試験 地理B (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：35 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化	○ 変化なし    ● やや易化    ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし    ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p><b>総評</b>                  問題数は昨年と同数の 35 問。全体としてはオーソドックスな問題で、判断に迷う選択肢の問題も少なくなったため、過去問などできちんと対策を立ててきた受験生にとっては、十分な得点が見込める問題であった。全体として大きな変化はないが、細かいところでは雨温図・ハイサーグラフ、地形断面図が出題されなかったのに対し、文章問題(穴埋め、正誤問題)はやや増加している。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	世界の自然環境と自然災害	17 点	問 1、問 2 は地形に関する問題、問 3 以降は気候に関する問題であった。問 4 については①の「冬季の豊富な降水」というところで誤りに気付けるかどうかポイント。問 6 はエルニーニョについての知識と、ペルー海流が寒流であるという知識を持っているうえで、それらを組み合わせて思考する必要がある。
第 2 問	資源と産業	17 点	問 1 については、リチウムの生産量上位国を知識として持っているのではないと思われるが、その他の項目からの消去法で対処できる。全体として判断に迷うような問題はなく、文章・選択肢をきちんと読めば解答できる問題であった。
第 3 問	生活文化と都市	17 点	全体として基本知識を持っていれば、統計、グラフ問題および正誤問題でも迷わずに解答できる。問 4 については、バングラデシュの人口がわかっているならば、首位都市の人口割合についても正しく解答できる。
第 4 問	西アジアの地誌	17 点	全体として基本知識を持っていれば問題なく解答できる問題であった。問 3 については、イスラエル以外で宗教構成のわかる国があるかどうかポイント。
第 5 問	北欧の地誌	14 点	北欧についての細かな知識は求められておらず、地理的思考力をもって臨めば問題なく解答できる。問 4 のアニメと言語の問題は斬新であったが、ヒントのスウェーデン語を参照すれば、言語系統の知識から判断できる。
第 6 問	岐阜県高山市の地域調査	18 点	気候、人口、地理歴史、地形図、観光、植生と例年通り多岐にわたるテーマで出題されているが、判断に迷う問題は少なかった。文章量が増えているのが今年の特徴と言えるが、問 3 はその文章をきちんと読めたかどうかポイントであった。観光の統計は文章と図表を照合すれば問題なく解答できる。